

学校教育目標	◎「大好き自分 大好きみんな とともに創る品濃の子」				
	○進んで学習に取り組み、学びを自らの生き方や社会とつなげ、自分の考えを深め、豊かに表現できる力を育みます。(知) ○自分のよさや可能性を認識するとともに、思いやりや感謝の心をもって、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する態度を育みます。(徳) ○規則正しい生活習慣、楽しく身体を動かす習慣を身につけ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。(体) ○地域社会とのつながりを大切に、自分ができることを考え、地域や社会のために自ら実践する力を育みます。(公) ○世界で起きている出来事にも広く関心をもち、持続可能な社会の実現に向けて身近なところから行動する力を育みます。(開)				
学校概要	創立 44 周年	学校長 針持 拓郎	副校長 酒井 敏雄	2 学期制	一般学級：19 個別支援学級：4
	児童生徒数：	580 人	主な関係校：	平戸中学校・平戸小学校・平戸台小学校・東品濃小学校 秋葉中・川上小・秋葉小	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	平戸中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自分づくりに関する力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力 地域に貢献する姿勢 ○持続可能な社会の創造に貢献する力 思いや考えを伝え合う力 多様性を尊重する態度	平戸中学校 平戸小学校 平戸台小学校 東品濃小学校	自ら学び、互いの違いを認め思いやりの心を持ち、地域や社会の つながり大切に子ども ・児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりを小中合同で研究・実践・評価する。 ・自分や他者ともに認め合う心を育む。 ・地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを重視した取組を推進する。

中期取組目標	○子どもたち一人ひとりの思いを大切にしながら、「考えをもてる力、伝え合える力、深められる力」の育成を目指した授業の充実を図る。 ○誰もが安心して豊かに生活できる学校を目指して、教育活動全体を通して人権尊重の精神に則り、差別・いじめの起こらない学校風土を醸成する。 ○特色ある学校教育の推進(ペア学年交流、立腰、もくもく清掃など)を行い、より良い人間関係の育成を図る。 ○横浜スタジアムなどで、日々の観察とデータを活用しながら、子どもたち一人ひとりの変化をよく見て捉え、学びの充実に活かすようにする。 ○ESDの視点を取り入れ、カリキュラムマネジメント、授業改善を行い、子どもたちの声を地域に反映していける相互に開かれた学校づくりを行う。 ○教職員が相互に啓発・連携して活気ある学校組織を継続する。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きて はたらく知	①教科の特性や教材について理解し、学習の楽しさが味わえる授業を行う。②児童自らが学習に対する興味・関心をもって取り組めるような学習を工夫し、適切な個の見取りを行い、主体的な問題解決力を育む。③重点研究は国語を中心に、「深める」を意識して授業実践を行い、本校児童の実態改善につなげる。
徳	豊かな心	①「もくもく清掃」をはじめとするペア学年や異学年の交流をもとに、互いを認め合う気持ちや思いやりの気持ちを育てる。②挨拶に込める思いを意識し、「言葉によって良い雰囲気をつくる」ために、伝え方についても考える。③「立腰」の習慣づけから、姿勢とともに心も落ち着けていく意識を育てる。
体	健やかなからだ	①体育学習の充実を通して、身体を動かすことを楽しむ経験を積み重ねながら、自らの健康づくりと生涯体育への意識をもてるようにする。②給食を中心とした食育指導を通して、食と健康のつながりについて意識し、自らの行動を考えていく。③児童の必要感をもとに、ストレスへの対応や心の健康について理解を深める。
公開	自分づくり教育	①実体験を伴う教育活動を通し、感性を磨き、AI時代に必要な思考力や表現力を高める。②自己の成長や強みを自己評価できるような取組を通し、自己肯定感を高めていく。③YPの考え方を普段から大切にし、誰もが安心して活動できる環境の中で、他者との関係のつくり方や自らのキャリア形成について考える。
いじめへの対応		①YPアセスメントやスタディナビなど様々な手立てを活用し、日々の見取りを複数の教職員で確認しあい、児童の変化に気づく。②学年とともに児童支援専任が積極的に関わり、組織として対応できる体制づくりを行う。③YPの考え方を生かした取組や、道徳・児童会活動等を通し、いじめに気づき考える児童を育成する。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①40分授業を活用して放課後のゆとりを生み出し、会議等の定期的な見直しを行って、有効的な時間の活用を継続して考える。②教科分担制を進め、複数の教員が児童に関わり、一人で抱え込まない組織づくりを行う。③キャリアステージに合った活躍の場面を設定し、自らが目標とやりがいをもって取り組める環境をつくる。
特別支援教育		①一人一人の実態や困り感を理解し、児童や保護者の思いに寄り添いながら、適した手立てを検討・支援していく。②UDの考え方を理解し、職員間で共通理解を図って、誰もがわかりやすく使いやすい環境を整える。③特別支援教育について共通理解し、日常の活動の中で必要な支援を行う。
児童生徒指導		①「学校のきまり」の必要性について考える機会をもち、皆の安心・安全のため自律心をもって行動できるようにする。②問題行動の未然防止のため、日頃から継続的に指導を行うとともに、保護者との連絡も密に行う。③教育委員会、SC、SSW、区役所、警察等他機関との連携を強め、児童支援に対応していく。
地域連携 学校運営協議会		①地域の材を生かした学習活動を進め、学校と地域の結びつきを一層強めていく。②学校運営協議会の円滑な実施を推進し、児童の健全な育成に必要な支援を依頼する。③連合町内会定例会や地域行事等の参加を通して、顔の見える関係を構築し、緊急時や災害時に適切な協力ができるようにする。
保護者・PTA ボランティアとの連携		①PTAによる交通安全見守りや「いきいきキッズ」、読み聞かせ等を通して、子どもたちの安全で健やかな育成について、保護者のご協力をいただく。②学校HPや学校だより等で本校の取組を広く広報しご理解をいただくとともに、学校・家庭・地域のさらなる連携の強化を図り、共に児童の育成を行う協力者という意識を高める。